

2006年第1四半期 NAND 型マーケットシェア・ランキング(速報値)
～ 東芝ひとり勝ち、平均単価の下落を抑えてシェア拡大～

アイサプライ・ジャパン株式会社（所在地:東京都中央区京橋、代表取締役社長:ティム・ワン;Tim Wang）は、2006年5月22日、2006年第1四半期の NAND 型フラッシュメモリーのマーケットシェア・ランキング(速報値)において、東芝が前期比で売上増を記録し、シェアを大きく伸ばしたことを発表した。

NAND 型フラッシュのナンバー2 企業である、東芝の第 1 四半期の NAND 型フラッシュの売上高は、2005年第4四半期の6億8000万米ドルから、18パーセント増加し、8億100万米ドルに達した。これによって、日本の半導体企業の NAND 型フラッシュ市場シェアは、同期間に 24.6 パーセントにまで拡大した。同 19.2 パーセントであった 2005 年の第 4 四半期に比べ、シェアを 5.4 パーセント伸ばしたことになる。

図表 1 は、2006 年第 1 四半期における NAND 型フラッシュメモリーのマーケットシェア・ランキング速報値である。

図表 1:2006 年第 1 四半期の NAND 型フラッシュメモリー・マーケットシェア・ランキング速報値(単位:百万米ドル)

Rank	Company	Q1 2006 売上高(M\$)	Q1 2006 Share	Q4 2005 売上高(M\$)	Q4 2005 Share	Q1 '06/ Q4 05	Q1 '06/ Q1 '05
1	Samsung	1,582.0	48.7%	1,802.0	50.8%	-12%	32%
2	東芝	801.0	24.6%	680.0	19.2%	18%	61%
3	Hynix	481.0	14.8%	600.0	16.9%	-20%	232%
4	ルネサステクノロジ	183.5	5.6%	226.0	6.4%	-19%	61%
5	Micron Technology	95.0	2.9%	108.0	3.0%	-12%	850%
6	STMicroelectronics	81.0	2.5%	89.0	2.5%	-9%	326%
7	Infineon	26.0	0.8%	45.0	1.3%	-42%	-21%
	Total	3,249.5	100.0%	3,550.0	100.0%	-8%	61%

出典:アイサプライ社 2006年5月

2006 年第 1 四半期の世界の NAND 型フラッシュ市場は、2005 年第 4 四半期における 36 億米ドルから、32 億米ドルに後退した。この期間の成長率は、8 パーセント減となり、東芝の躍進とは極めて対照的である。市場は確かに大きく減退したが、アイサプライ社の以前の予測よりは、好調であった。アイサプライ社では、以前、第 1 四半期は、前期(2005 年第 4 四半期)に比べて 12.9 パーセント減少すると予測していた。

予測よりも好調に推移したのは、NAND 型フラッシュの平均単価の下落率が、予測ほど落ち込まなかったことが大きい。アイサプライ社の以前の予測では、2005 年第 4 四半期比べて、平均単価は 28 パーセント減少すると見ていたが、実際には、同 22.5 パーセントの下落に止まった。加えて、出荷数量が対前期比 19 パーセント増と、大きな伸びを示したことも、幸いした。

「平均単価の下落が下げ止まったことや、安定した出荷増によって、NAND 型フラッシュ市場は、第 1 四半期において、一般的に予測されていたほど悪くはなかった。」と、アイサプライ社のディレクター兼首席アナリストである、Nam Hyung Kim(キム・ナムヒョン)は、述べている。

また、「メモリー市場におけるスポット価格の弱さは、平均単価全体にそれほど影響を及ぼさなかった。2005 年第 4 四半期からの受注残と、エンベデッド・フラッシュメモリーの引き続き強い需要によって、全体的に価格が安定し、MP3 オーディオ・プレーヤーや携帯メモリー・カード市場からの弱い需要が相殺された。」と言う。

第 1 四半期の NAND 型フラッシュ売上高は、前期に比べて 8 パーセント減となったが、前年同期比では、60 パーセント増であった。NAND 型フラッシュメモリーは、前年同期比で、世界の半導体市場の中で、最も急速に成長している半導体製品と位置づけられる。

東芝が NAND 型フラッシュで売り上げを伸ばした一方、世界の 2 大メモリー・サプライヤーである、韓国のサムスン電子とハイニックス・セミコンダクター社は、両社ともに売り上げを落とした。両社は、DRAM 同様に、NAND 型フラッシュにおいてもまた、第 1 四半期に前期比で売上減となった。NAND 型フラッシュ市場において、前期に比べて、両社合わせて 4.2 パーセントのシェアを失い、売上高は 3 億 3900 万米ドル減少した。

サムスン電子のマーケットシェアは、50 パーセント以下に下がった。NAND 型フラッシュ企業の中で、前期比で売上増を達成した企業は、唯一、東芝だけであった。東芝がプラス成長したことによって、サムスン電子とのマーケットシェアの差を 7.6 パーセントに縮めた。東芝の業績が好調であったのは、NAND 型フラッシュの平均単価の下落率を、15 パーセント減と、市場の平均よりはるかに低く抑えることに成功したためである。対照的に、サムスン電子とハイニックス・セミコンダクター社の NAND 型の平均単価は、同 20 パーセント以上も下落した。

アイサプライ社のマーケットシェア予測によると、DRAM もしくは NAND 型のどちらか 1 つのメモリー製品に特化している企業は、両製品を供給している企業に比べて、好調であった。

第 1 四半期は意外に良い結果となったが、アイサプライ社では、2006 年の NAND 型フラッシュ市場における成長率は、依然として、対前年比 28 パーセント増と予測している。

このプレスリリースに関するお問い合わせは下記へ

アイサプライ・ジャパン株式会社

〒104-0031

東京都中央区京橋 2 - 7 - 14 ビュレックス京橋 2 階

TEL: 03-3562-1580 FAX: 03-3562-1582

URL: <http://www.isuppli.co.jp>

広報部 e-mail : market.info@isuppli.co.jp または

Tim Wang(ティム・ワン) e-mail : twang@isuppli.com